

農林水産統計

STATISTICS OF AGRICULTURE, FORESTRY AND FISHERIES

平成18年 3月 6日発表

平成17年産 茶生産量（九州主産県）

摘採延べ面積、生葉収穫量ともに減少

【調査結果の概要】

- 九州主産県における平成17年産茶の摘採延べ面積は3万7,100haで、前年産に比べ1,200ha（3%）減少しました。
- 生葉収穫量は16万8,600tで、前年産に比べ8,700t（5%）減少しました。
また、荒茶生産量は3万4,700tで、前年産に比べ1,600t（4%）減少しました。

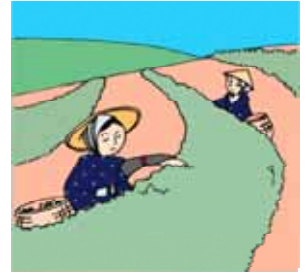
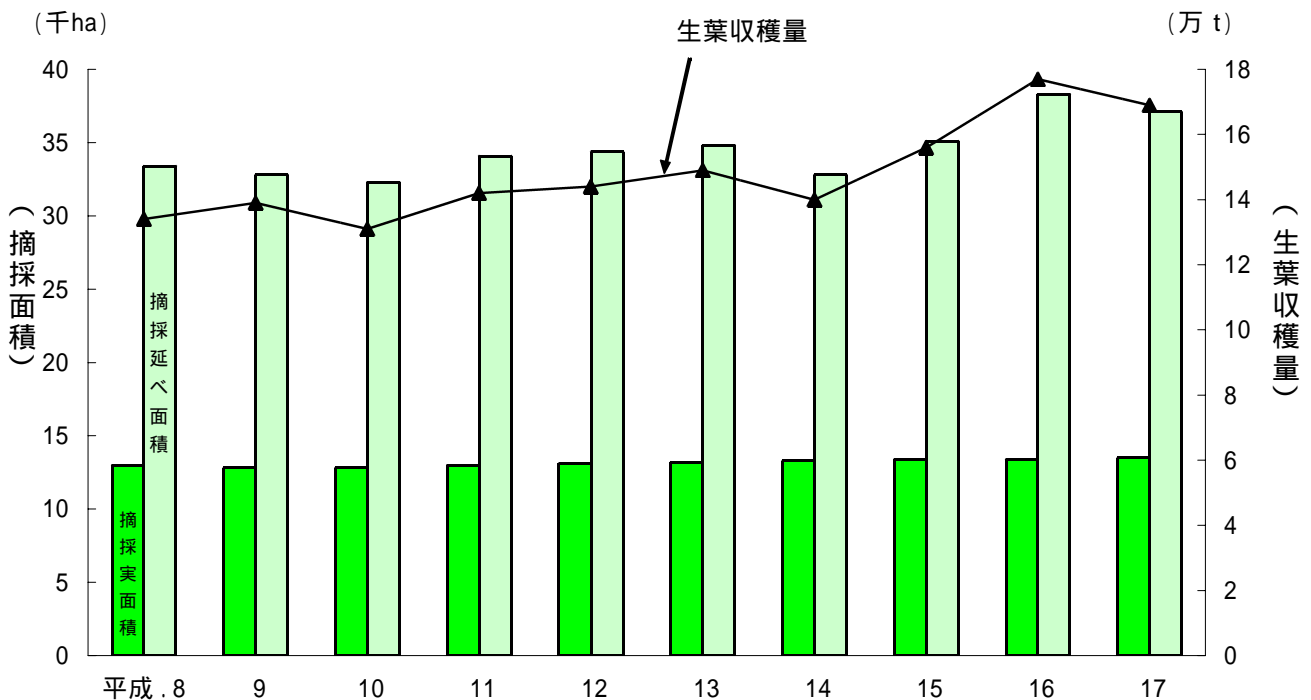


表1 平成17年産茶の生産状況（九州主産県）

区分	栽培面積	摘採面積		生葉収穫量	荒茶生産量
		実面積	延べ面積		
	ha	ha	ha	t	t
平・17	15 000	13 500	37 100	168 600	34 700
16	14 900	13 400	38 300	177 300	36 300
対前年比(%)	101	101	97	95	96

図 摘採面積と生葉収穫量の推移（九州主産県）



【 解 説 】

1 摘採面積

茶の摘採延べ面積は3万7,100haで、前年産に比べ1,200ha（3%）減少しました。

これは、鹿児島県が大宗を占める四番茶・冬春秋番茶の摘採が価格の低迷等により手控えられたためです。

2 生葉収穫量

生葉収穫量は16万8,600tで、前年産に比べ8,700t（5%）減少しました。

これを茶期別にみると、一番茶は2月～3月の低温の影響による摘採時期の遅れや4月中旬の降霜による被害もみられたものの、その後の気温上昇や適度の降雨があったことから芽の伸長が促進されかなり増加しました。

しかし、二番茶以降は、少雨の影響で芽の伸長が抑制されたことやハダニなどの害虫発生、特に、四番茶・冬春秋番茶の摘採面積の減少によりかなり減少しました。

3 荒茶生産量

荒茶生産量は3万4,700tで、前年産に比べ1,600t（4%）減少しました。

これを茶種別にみると、かぶせ茶が1,680t、普通せん茶が2万3,900t、玉緑茶が3,320t、番茶が5,720tで、前年産に比べ、それぞれ50t（3%）、900t（4%）、260t（7%）、450t（7%）減少しました。

表2 茶期別の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（九州主産県）

区 分		計	一番茶	二番茶	三番茶	四番茶・ 冬春秋番茶
摘採延べ面積(ha)	平・17	37 100	13 400	10 300	7 320	6 220
	16	38 300	13 300	10 500	7 320	7 180
	対前年比(%)	97	101	98	100	87
生葉収穫量 (t)	平・17	168 600	67 100	47 100	33 800	20 800
	16	177 300	63 500	50 900	37 500	25 400
	対前年比(%)	95	106	93	90	82
荒茶生産量 (t)	平・17	34 700	13 500	9 410	6 990	4 850
	16	36 300	12 600	10 100	7 720	5 880
	対前年比(%)	96	107	93	91	82

表3 茶種別荒茶生産量（九州主産県）

単位：t

区 分	計	玉 露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶	番 茶	そ の 他
平・17	34 700	83	1 680	16	23 900	3 320	5 720	8
16	36 300	83	1 730	7	24 800	3 580	6 170	9
対前年比(%)	96	100	97	229	96	93	93	89

統計表

1 栽培面積、摘採実面積、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	栽培面積		摘採実面積		摘採延べ面積		生葉収穫量		荒茶生産量		
		対前 年比		対前 年比		対前 年比		対前 年比		対前 年比	
	ha	%	ha	%	ha	%	t	%	t	%	
主産県計											
平	13	14 700	101	13 200	101	34 800	101	148 600	104	30 300	104
	14	14 800	101	13 300	101	32 800	94	140 000	94	28 100	93
	15	14 900	101	13 400	101	35 100	107	156 200	112	31 300	111
	16	14 900	100	13 400	100	38 300	109	177 300	114	36 300	116
	17	15 000	101	13 500	101	37 100	97	168 600	95	34 700	96
福 岡		1 580	100	1 440	99	2 420	100	11 100	102	2 260	100
佐 賀		1 040	100	970	100	2 030	89	8 810	90	2 030	94
長 崎		781	100	634	95	1 370	90	4 990	93	975	92
熊 本		1 660	99	1 460	99	2 350	95	9 340	102	1 910	103
宮 崎		1 550	105	1 310	102	3 460	99	17 800	96	3 660	97
鹿 児 島		8 390	100	7 690	103	25 500	98	116 600	94	23 900	95

注：主産県計については、九州主産県の合計である。（以下の各統計表において同じ）

2 茶期別摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量

区 分	一番茶			二番茶			三番茶			四番茶・冬春秋番茶			
	摘採 面積	生葉 収穫量	荒茶 生産量	摘採 面積	生葉 収穫量	荒茶 生産量	摘採 面積	生葉 収穫量	荒茶 生産量	摘採 面積	生葉 収穫量	荒茶 生産量	
	ha	t	t	ha	t	t	ha	t	t	ha	t	t	
主産県計													
平	13	13 100	64 000	12 800	9 810	44 000	8 790	6 690	27 300	5 570	5 120	13 500	3 140
	14	13 300	63 000	12 400	9 840	42 700	8 510	6 020	23 300	4 670	3 650	11 100	2 490
	15	13 300	67 200	13 200	9 810	43 400	8 490	6 550	27 100	5 450	5 410	18 500	4 160
	16	13 300	63 500	12 600	10 500	50 900	10 100	7 320	37 500	7 720	7 180	25 400	5 880
	17	13 400	67 100	13 500	10 300	47 100	9 410	7 320	33 800	6 990	6 220	20 800	4 850
福 岡		1 440	7 050	1 420	756	3 240	670	164	545	117	63	250	48
佐 賀		890	4 360	990	706	2 890	645	308	1 120	274	130	440	119
長 崎		614	2 590	516	463	1 510	289	257	779	146	37	115	24
熊 本		1 450	5 880	1 170	654	2 450	520	205	856	185	45	153	35
宮 崎		1 310	7 290	1 480	951	4 960	1 010	809	4 360	901	393	1 232	272
鹿 児 島		7 690	39 900	7 920	6 720	32 000	6 280	5 580	26 100	5 370	5 550	18 600	4 350

3 茶種別荒茶生産量

単位：t

区 分	計	緑 茶							番 茶	その他
		小 計	覆 い 茶			せ ん 茶				
			玉 露	かぶせ茶	てん茶	普通せん茶	玉緑茶			
主産県計										
平	13	30 300	30 300	99	1 660	5	21 000	3 450	4 090	1
	14	28 100	28 100	91	1 780	8	19 900	3 250	3 160	2
	15	31 300	31 300	91	1 880	9	21 600	3 090	4 690	8
	16	36 300	36 300	83	1 730	7	24 800	3 580	6 170	9
	17	34 700	34 700	83	1 680	16	23 900	3 320	5 720	8
福 岡		2 260	2 260	82	459	5	1 680	-	32	-
佐 賀		2 030	2 030	1	385	0	560	1 040	43	3
長 崎		975	974	-	294	-	20	513	147	1
熊 本		1 910	1 910	-	26	1	906	975	3	0
宮 崎		3 660	3 660	-	11	10	2 960	405	271	1
鹿 児 島		23 900	23 900	-	500	-	17 800	387	5 220	3

【利用上の注意】

- 1 表中に用いた「0」は単位未満のものを、「-」は事実のないものを示します。
- 2 計と内訳が一致しないのは、ラウンド（四捨五入）のためです。

原 数		6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1,000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数（下から）		2 けた		1 けた	四捨五入 しない
例	四捨五入する前（原数）	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した後（統計数値）	123 500	12 300	1 230	123

【調査の仕様】

1 調査の目的

本統計調査は、茶の生産に関する実態を明らかにし、各種行政施策の推進などの農業行政の基礎資料を整備することを目的に実施しています。

2 調査の対象

九州主産県を対象に行っています。主産県とは、全国の荒茶生産量のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県に加えて、畑作物共済事業を実施する都道府県です。

3 調査期間

標本工場に対する面接調査は平成17年12月1日現在です。

4 調査方法

センター職員による荒茶工場に対する面接調査（標本調査）、作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りを行っています。

5 調査客体数

面接調査：330 標本工場 基準筆調査：48 筆

6 集計方法

九州主産県の結果を積み上げ集計しました。

7 用語の解説

摘採面積： 茶栽培面積のうち、収穫を目的として摘採した面積です。

茶期区分： 茶期は、各地域によって異なっており、各茶期の区分は通常その市町村の慣行による茶期区分を用いました。ただし、全国的な標準茶期区分は、下記のとおりです。

なお、冬春秋番茶とは、統計作成上、冬春番茶と秋冬番茶とを合計したものです。

茶期別	区 分	茶期別	区 分
一番茶	3月10日 ~ 5月31日	四番茶	9月11日 ~ 10月20日
二番茶	6月1日 ~ 7月31日	秋冬番茶	10月21日 ~ 12月31日
三番茶	8月1日 ~ 9月10日	冬春番茶	1月1日 ~ 3月9日

荒 茶： 茶葉（生葉）を蒸熱、発酵、じゅうねん、乾燥等の加工処理をし、製造されたもので、仕上げ茶として再製する以前のものをいいます。また、その加工重量を荒茶生産量といいます。

荒茶の茶種

玉 露： 一番茶の摘採期前に茶樹の上部及び側面をよしず、むしろ、化学繊維等で、ほぼ完全に日光をさえぎるように覆った覆下茶園から茶葉を摘採し、これを蒸熱、じゅうねん、乾燥して製造したものをいいます。

かぶせ茶： 一番茶の摘採期前に7日前後、茶樹の上部に化学繊維、わら、むしろ等で簡単に覆った茶園から茶葉を摘採して製造したものをいい、一般に「かぶせ」と称しています。

て ん 茶： 玉露と同じく覆下茶園から摘採した茶葉を蒸熱し、もまないで乾燥して製造したものをいい、まっ茶の原料荒茶となるものです。

普通せん茶： 普通の茶葉（自然光下で栽培し、摘採した茶葉）を蒸熱、じゅうねん、乾燥して製造したものをいいます。

玉 緑 茶： 普通の茶葉（自然光下で栽培し、摘採した茶葉）を蒸熱又は釜炒りし、じゅうねん、乾燥して製造したもので、まが玉形やこれに準ずる形状をしています。

番 茶： 新古茎葉枝等を用いて製造したものをいいます。

また、定期の茶摘採後に樹形を整えるため硬葉を茎と共に深刈り又は浅刈りし、これから製造した荒い番茶（刈り番茶）を含みます。

そ の 他： 食品加工用茶、紅茶等です。

全国の主産県調査結果は、農林水産省ホームページ中の農林水産統計データに掲載しています。

<http://www.maff.go.jp/www/info/index.html>

分野別分類は「面積・収穫量（米・麦・豆等）」、品目別分類は「工芸農作物」に分類しています。

【関連リンク】

九州農政局ホームページ>農林水産情報>農林水産統計

<http://www.kyushu.maff.go.jp/toukei/home/sokuho.htm>

【掲載内容に関するお問い合わせ先】

本統計調査結果について

連絡先：九州農政局 統計部

生産流通消費統計課 生産統計第1係

電話：(代)096-353-3561 内線 4753

直通電話： 096-353-7574

農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局 統計部

統計企画課 企画第2係

電話：(代)096-353-3561 内線 4723

直通電話： 096-353-7556